

自由論題 3 「統合とアイデンティティの比較史」 コメント

福田 宏 (hfukuda@slav.hokudai.ac.jp)
(北海道大学スラブ研究センター研究員)

村上剛、コンラド・カリツキ、ニコラス・フレイザー

「市民権の政治：日本における旧植民地帝国臣民の法的地位とその比較」

- ・ Janoski の歴史的段階論と当報告の射程 (1945-52) → 小熊『日本人の境界』(1998)
北海道 76 年、琉球 73 年、台湾 50 年、朝鮮 35 年：50 年ルールの観点
戦後直後の議論：台湾人・朝鮮人・琉球人が同列に論じられる
- ・ 琉球と台湾の間：戦争末期の「琉球難民」→ 松田『台湾疎開』南山舎 (2010)
- ・ 国籍という制度の比較、国籍法が議論の対象になりにくいという「文化」の比較
第二次大戦後の「単一民族」神話と血統主義 → ブルーベイカー (佐藤) (2005)

土倉莞爾「比較政治史の中のキリスト教民主主義」

- ・ 国内政治における政党間の相関関係：世俗主義、経済的自由主義、社会主義
チェコのキリスト教社会党 (1909 年、或る教会での「燃え上がるような」説教)
自由・平等・友愛は唯一カトリック教会の光の中に存在している。... [奴らは]
恥じらいのない自己中心主義、拝金主義、無神論を植え付けようとしている。
... 穀物価格の上昇も貧しい民を搾取する大企業の存在も [奴らが] 悪いのである。
唯一キリスト教社会党だけがそうした不正に対する戦いを挑んでいるのだ。
- ・ 国際協力の観点：ドイツのカトリック保守と欧州統合
第二次大戦後の「ヨーロッパ熱」と「再カトリック化」→ アーベントラント
サラザール体制の評価とパン・ヨーロッパ連盟との接続 → 欧州人民党？
→ 遠藤・板橋編『複数のヨーロッパ』「黒いヨーロッパ」北大出版会 (2011)
- ・ 農民とカトリック：「緑色インター」→ 仏, 蘭, 墺, アールガウ, ベルン, (白, 希, 西)

立石洋子「国際情勢と自国史像の変化：スターリン期ソ連の事例から」

- ・ 戦略としての「アフターマティヴ・アクションの帝国」(マーチン、明石書店 2011)
- ・ 例としての北カフカスの英雄シャミーリ (19 世紀)
ロシア民族と非ロシア民族、非ロシア民族内部の支配 (階級支配と植民地支配)
時期による変化：戦間期、独ソ戦期、独による占領期、戦後・冷戦期
- ・ 非ロシア諸民族同士の関係：モスクワにとっての戦略？
→ アルメニア人アジェミャン、アゼルバイジャン人バギーロフによる批判
- ・ 西方諸民族と東方諸民族の相違、反抗的民族と従順な民族の相違